

	委員氏名	(1)地域福祉に関する調査及び意見交換会等の結果について(資料1)	回答
1	三橋委員	<p>① P13 ほおっちょけんネットワーク会議について、「活動の創設」、「地域課題の解決」とあるが、どのような活動になっているか知りたい。</p> <p>② P23 ほっちょけん相談窓口について、まだまだ周知がされてないと感じる。新聞広告を出すとか、お薬を渡す時にチラシを配る、「困ったことはないですか?」と声をかける等、工夫をしてはどうか?</p>	<p>① 「ほおっちょけんネットワーク会議」では、地域を構成する多様な主体が出会い、学び合う”プラットフォーム”の形成を目指しており、対話の中から新たな気づきや展開が生まれる場づくりを進めています。具体例として、江ノ口西地区では、住民の関心が高い「認知症」をテーマに話し合いを進めています。その中では、参加者の「認知症に対する正しい理解」や「当事者やその家族から話を聞ける機会や集える場があったらいい」という意見から、ネットワーク会議に参加している企業の店舗スペースの一角を活用した認知症カフェの立ち上げに向けて準備しています。また、その立ち上げに向けたプロセスにおいては、専門職等が提案する形での場づくりではなく、住民の主体形成のプロセスを大切に活動の創設を進めています。</p> <p>さらに、ネットワーク会議に参加した企業が実施しているサービスを、後日、地区民生委員児童委員協議会定例会においても共有することで、企業への依頼件数が増加するなど、困っている人に情報が届く仕組みづくりに繋がっています。【高知市社会福祉協議会(地域協働課)】</p> <p>② ほおっちょけん相談窓口については、高知市広報「あかるいまち」への特集等掲載や、学校や町内会、民生委員児童委員の皆様のご協力を得て、周知に努めており、今後も様々な機会を通じた周知に取り組んでまいります。【高知市(地域共生社会推進課)】</p>
2	島元委員	<p>高齢化をむかえ、ゴミ出し困難者(不燃ごみ、生ごみ)がますます増えてくるため、(高層マンション等)援助が必要ではないか。</p>	<p>高知市では、高齢者や障害のある方等、自らごみをごみステーションまで持ち出すことが困難で、親族や近隣住民などの協力を得ることができない世帯を対象に、訪問による玄関先からのごみの収集を行う「ふれあい収集」を実施しています。しかし、ふれあい収集の対象外の方など、地域の支え合いで、なんとかごみ出しができていく人が増えてきている現状もあり、ごみ出し困難者に対してのさらなる対策は、重要な課題だと認識しています。現在、庁内横断的な組織である地域共生社会推進本部や部会において検討を進めているところであり、引き続き、関係各課で協議してまいります。【高知市(地域共生社会推進課)】</p>
3	細川委員	<p>DVD拝見し、良く理解できました。江ノ口西、一宮地区、旭地区は住民活動が市内でも比較的活発な地域で羨ましく思っております。地域性もあり各地域での特性、また人との結びつきが異なるので同一にはできないと思っておりますが、私共(北街)ではどうすれば良いのかと悩みます。</p>	<p>各地域での地域性等もあり、それぞれの地域で活動されている皆様が日々悩みながら活動されていることと思います。私たち高知市、高知市社会福祉協議会ともに、地域福祉の推進に向け、地域の皆様のお力になればと思っておりますので、活動について一緒に検討させていただければと思います。【高知市、高知市社会福祉協議会】</p>

	委員氏名	(2)高知市地域福祉活動推進計画(平成31~令和6年度)中間見直し素案について(資料2)	回答
1	三橋委員	<p>① P6, 22 包括的相談支援について。今までは、包括支援センターに入ってきた若い世代の相談は、障害がありそうなら障がいへつないでいたが、どこへつないだら良いか分からない場合、地域共生社会推進課へつないで良いのか？</p> <p>② P7 リコネットについて、コロナで百歳体操が休止・再開を何度かしたが、会場によっては世話役に聞かないと分からないところも多かった。リコネットで会場ごとに休止・再開が見れたら良いと思う。</p> <p>③ P10 ほおっちょけん学習について、高齢者の参加につながったと書いてあるが具体的にどのようなことが知りたい。企業でもどのように活用されているか知りたい。</p> <p>④ P11 生活支援ボランティアについて、無償でお手伝いをするとあるが、利用する側の反応はどうか？無償だと気がひけるという声もあるが。また、コーディネートはCSWがやっているのか？今後コーディネーターの養成は考えているか？</p>	<p>① 包括的相談支援では、これまで各分野の相談機関が培ってきたノウハウを活かしながら、既存の各事業の連携をさらに強化し、より効率的・効果的な相談支援を行います。また、包括的に相談を受け止め、専門機関などに適切につなげるなかで、各支援機関の役割分担や支援の方向性の整理が必要な場合は、各部署に配置した包括的相談支援員を中心に検討し、必要時、地域共生社会推進課も全体のコーディネートを行うこととなります。地域包括支援センターに入ってきた若い世代の相談で、どこへつないだら良いか分からない場合は、一旦は包括的相談支援員を配置している基幹型地域包括支援センターに相談をお願いします。【高知市(地域共生社会推進課)】</p> <p>② ご質問のとおり、いきいき百歳体操の会場に限らず、各社会資源のリアルタイムの情報を提供することがベストだと考えていますし、それができるのがウェブ媒体の大きなメリットです。実際に、介護保険分野などでは、定員の空き情報など、リアルタイムの情報更新を行っていただいている事業所もあります。ただ、いきいき百歳体操のような住民主体の活動は、タイムリーな更新が難しいのが現状です。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。【高知市(地域共生社会推進課)】</p> <p>③ 現在、市社協にて実施している「ほおっちょけん学習」は、民生委員児童委員や福祉委員、関係機関等の協力を得て実施していますが、中には、そうした役を全く担っていない高齢者の方に協力していただいている地域もあります。「ほおっちょけん学習」は子どもたちへの福祉教育という側面だけでなく、このように地域で役割があっても無くても様々な方が活躍できる機会として、高齢者の社会参加の拡がりという点においても効果があると考えています。今後も「ほおっちょけん学習」の機会を増やしていくことで、前述のような方々の活躍の場を確保していくとともに、これまで関わりの無かった方々にも参加していただけるようなコーディネートを行っていきたく考えています。</p> <p>また、令和2年度からは「企業版ほおっちょけん学習」を試行的に実施していますが、近年世界的に取り組んでいるSDGsの観点からも企業の地域貢献への関心は高くなってきていると感じています。学習の活用例として、これまで企業において独自に実施してきた地域貢献活動が、地域ニーズに合っているかどうかの点検や企業の強みを活かした地域貢献の方法について考える機会となっているとともに、職員各々の福祉意識の醸成と地域とのつながりづくりとしても活用されています。このように「企業版ほおっちょけん学習」をキッカケに、企業が地域福祉活動へ参加していく可能性が広がることを期待できるとともに、本計画のスローガンとして掲げている「福祉でまちづくり」を進めていくうえでも効果のある取組であると考えています。【高知市社会福祉協議会(地域協働課)】</p> <p>④ 「生活支援ボランティア」による支援を受けた方からは感謝の声をいただいておりますが、一方で、無償であることへの遠慮がある方もいらっしゃるかと思います。「生活支援ボランティア」の基本的な考え方として(ア)無償であること、(イ)専門的でないこと、(ウ)短時間であること、(エ)継続的でないこと、(オ)身体的介護を伴わないことを要件としています。支援の相談があった場合は、相談者の意向や状況等に応じて生活支援ボランティアや有償ボランティアや他の民間サービスにつなぐ等の対応をしています。有償ボランティアの団体とは、年1回意見交換会を行い、課題や事例等を情報共有することで、連携強化に努めています。</p> <p>また、「生活支援ボランティア」は、現状、市社協につながってきた相談内容のみを対応しているため、コーディネートは市社協のCSWが行っていますので、CSW以外の新たなコーディネーター等の養成については考えておりません。【高知市社会福祉協議会(地域協働課)】</p>
2	島元委員	<p>2025年、8050、ダブルケア、ひきこもりに続き「ヤングケアラー」が注目されている。中には小学生が親のケアをしており、このヤングケアラーに救いの手が必要ではないか。</p>	<p>この問題は早期発見が肝要であり、そのためには学校や地域での理解促進が求められています。本年度の県市連携会議にて、知事と市長が、県市教育委員会の連携を進めていくことを確認しています。児童生徒からのSOSを児童福祉部門で受け止めた場合は、従来から要保護児童対策地域協議会の枠組みの中で、支援体制を構築しているところですが、今後は包括的相談支援の中で、障害や介護の専門職がかかわった世帯にヤングケアラーを発見するアンテナを持っていただくことも重要であると考えています。課題発見後は、既存の福祉制度で解決できるケースがほとんどとなっています。【高知市(子ども家庭支援センター)】</p>
3	細川委員	<p>見直しは柔軟にやること大切だと思うので良いと思います。住民の困りごとのひろい出しはよほどの状態にならないと見えないことが多いので、早期に見つけることは日頃の連携が大切だと思いますが、そこをどうするか私共の課題です。住民が何故ささえ合いが必要か、自身のことと考えるかをもう一度どんな形で伝えればと考えるきっかけになればと願います。</p>	<p>「何故支え合いが必要か、自身のこととして考えるか」については、住民主体の地域福祉活動を推進していく上で、とても大切な視点になりますので、高知市、高知市社会福祉協議会ともにその視点をもって活動を進めていきます。【高知市、高知市社会福祉協議会】</p>